



FUJIEDA ROTARY CLUB

藤枝ロータリークラブ会報

例 会：毎週水曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL 054-641-3321
 事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL 054-647-2300 FAX 054-647-2040
 URL http://www.fujieda-rotary.org/ E-mail club1972@fujieda-rotary.org



【紅葉】
写真提供：櫻井龍太君

会長：仲田 廣志 副会長：大塚 博巳 幹事：池ノ谷 敏正 副幹事：森下 敏顯

第1984回

【2012-2013年度 RIテーマ】 ■ ソング 四つのテスト ■ ソング リーダー 小林弘君

会長報告

仲田 廣志君

皆さん、こんにちは。陰暦でいうと2月は如月です。「如月」という字は、中国での2月の異称をそのまま使った



もので日本の「きさらぎ」の名称とは関係ないそうです。寒さで着物を重ねて着ることから「着更着」とする説が有力とされているそうです。その他に、気候が陽気になる季節で「気更来」とする説、草木が生え始める月で「生更木」とする説、草木が芽を張り出す月で「草木張り月」が転じたという説もあるそうです。

2月も半ばに入りまして感じますことは、日が急に長くなったような気がします。12月の冬至から日一日と日照時間が伸びてきていますので当然のことなのですが、2月のこの時期になりますと日差しも強く感じるようになり、その感がより大きくなるように思います。今週の週末は、清水寺の縁日です。例年この頃に春一番がやってきます。

去年は春一番が観測されなかったそうですが、その前の4～5年は2月中旬から下旬の間にやって来ました。自然界は厳しい冬から暖かい春へと確実に進んでいます。経済の世界も暗闇の向こうから何かしら薄明かりが見えつつあるようにも感じます。額に汗する者必ず報われる、努力する者必ず報われる国へと進んでくれる事を祈念いたしまして会長報告とさせていただきます。

幹事報告

池ノ谷 敏正君

- 2620地区より、2013 - 2014ガバナ

ーノミー決定のお知らせ届いております。
(甲府 RC 野口英一氏に決定)

- 2620地区より、ロータリー囲碁同好会「第14回ロータリー国際囲碁大会」のご案内が届いております
- 公益財団法人米山記念奨学会より、ハイライトよねやま155号が届いております。

出席報告

中森 義次君

本日のホームクラブ 出席者	前回の補正出席者
33 / 39 84.61%	30 / 39 76.92%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

平君 松葉隆君 山田君 大杉君
落合君 仲田晃君

(2)メイクアップ者

青島 彰君(藤枝南)

スマイルBOX

中森 義次君

- 誕生日のお祝いありがとうございました。
青島 彰君
- 奉仕プロジェクト委員会国際奉仕担当卓話をさせていただきます。
石垣 善康君

スマイル累計金額 155,730円

奉仕プロジェクト委員会卓話

国際奉仕担当

石垣 善康君



2月は国際理解月間、本日は国際奉仕活動について、報告させていただきます。入会以来、私がかかわった国際奉仕活動についての報告ですので、個人的な話になりますが、宜しく願いいたします。

最初のかかわりは、12年前、竹田会長、小澤分区代理の年度でした。その年、スウェーデンよりGSEチームが来日、メインクラブとして担当し、我が家にも1名のメンバーがホームステイいたしました。公式行事として、藤枝市在住の女性とのディスカッションが印象的でした。

2005年には、ブラジルから交換留学生を1年間受け入れ、カウンセラーを務めました。今、振り返りますと、彼と会うときは何時もマナー等について注意していたことを思い出します。

つぎの体験は、2008年、台湾からのGSEチームのメンバーをホームステイさせたことです。我が家にホームステイされたメンバーは日本語が流暢で、ストレスを感じない受け入れでした。

2011年には、米山記念奨学生、プロタープ君のカウンセラーを務めました。真面目なバングラディッシュからの留学生で、楽しい一年間でした。又、バングラディッシュを訪問し、ウツラロータリークラブのメンバー、そして彼の家族から大変歓迎をしていただきました。

その他、韓国のヤンジュロータリークラブとの交流も良い経験でした。

振り返りますと、国際交流 国際奉仕活動は身近に存在いたします。それは、良い経験です。入会年度の浅い会員の皆様はぜひかかわりをもたれる事をお勧めし本日の卓話といたします。

3 分 間 ス ピ ー チ 鈴木 舜光君

『達磨さんの話』

皆さんは、達磨さんって知っていますよね。「七転び八起き」のことわざや、ダルマさんで親しまれています。



この達磨さんは、初めてインドから中国に禅の教えを伝えた方で、禅宗の祖と言われています。

震旦（中国のこと）初祖、又は、円覚大師と呼ばれています。

曹洞宗のお寺さんでは、本堂の向かって左の壇に奉られています。

真っ赤な縁起ダルマは、達磨大師が寒さをよけるために「赤い被」と呼ばれる布団のような物をかぶって座禅している姿が元になっているといわれています。

群馬県の高崎市がその産地として有名ですが、寺院や神社でも縁起物として売られています。

何度転んでも起き上がるので、縁起がよいとされています。

達磨さんは、縁起物として選挙の時などに見受けられますが、達磨さんの「目」を墨で書き入れる風習があり、養蚕地帯に多く見られます。春蚕が当たると片方を入れ、秋蚕も良いともう片方の目を入れる風習があるそうです。

達磨大師は、中国からインドに来た渡来僧と伝えられ、お釈迦様から数えて28代目のお祖師様であり、中国禅宗の初祖と言われ円覚大師菩提達磨大和尚と称します。

達磨大師は「碧眼の胡僧（青い眼の異国の僧）」とも言われていますが、色々な説がありますが、禅宗では、中国の梁武帝と問答を交わし、武帝の答えにがっかりして北に渡り、崇山の少林寺に入って壁に向かって面壁9年間座禅をし続けたために手足が退化してしまったという説もあります。

武帝と達磨大師との問答が幾つかありますが、代表的な物は、武帝が達磨大師に「私は即位してから、寺を建てたり、写経をしたり、僧侶を何人も育てた...色々数え切れないほどの良いことをしてきたが、どんな功德があるのか...」と達磨大師に訪ねると、達磨大師は「無功德（功德など無い）」と答えたと言われています。功德を求めたり、利益を求めたりする様な行動や態度は好ましくない...と言う事だと思います。

（担当 / 池谷君）